

# NEWS LETTER

Vol.10  
2022.6月

## トピックス

### 就業等に参加している人は、生きがいを「十分感じている」割合が高い

令和4年6月14日、「令和4年版高齢社会白書」が閣議決定され、内閣府から公表されました。

#### 高齢社会白書とは

高齢社会対策基本法に基づき、平成8年から毎年政府が国会に提出している年次報告書であり、高齢化の状況や政府が講じた高齢社会対策の実施の状況、また、高齢化の状況を考慮して講じようとする施策について明らかにしています。

#### 高齢化の状況について

白書では、令和3年10月1日現在の年齢区分別人口やその構成比など、高齢化の現状を掲載（右表）しており、NEWSLETTER Vol.9でも取り上げたところですが、総人口に占める65歳以上人口の割合である**高齢化率 28.9%**と過去最高（前年より0.3ポイント上昇）となりました。

今後も65歳以上人口は増加傾向が続き、令和24年にピークを迎え、その後は減少に転じると推計されています。

総人口が減少する中で65歳以上の者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、令和18年に33.3%となり、国民の3人に1人が65歳以上の者になると推計されています。

#### 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

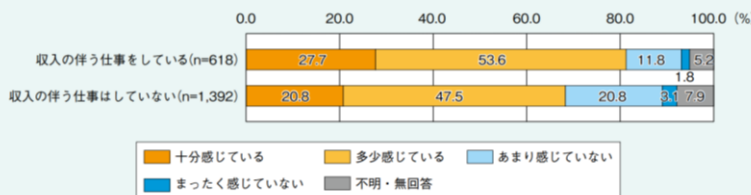
		令和3年10月1日		
		総数	男	女
人口	総人口	12,550	6,102	6,448
			(性比) 94.6	
	65歳以上人口	3,621	1,572	2,049
			(性比) 76.7	
	65～74歳人口	1,754	839	915
		(性比) 91.7		
75歳以上人口	1,867	733	1,134	
		(性比) 64.7		
15～64歳人口	7,450	3,772	3,678	
		(性比) 102.6		
15歳未満人口	1,478	757	721	
		(性比) 105.0		
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0
	65歳以上人口（高齢化率）	28.9	25.8	31.8
	65～74歳人口	14.0	13.8	14.2
	75歳以上人口	14.9	12.0	17.6
	15～64歳人口	59.4	61.8	57.0
15歳未満人口	11.8	12.4	11.2	

資料：総務省「人口推計」令和3年10月1日（令和2年国勢調査を基準とする推計値）  
 (注1)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口  
 (注2) 四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

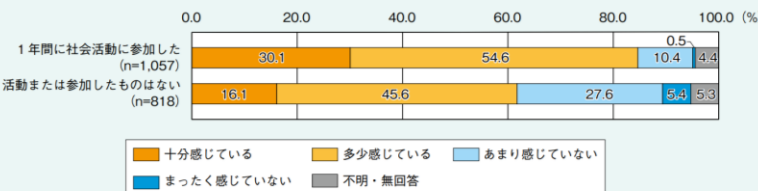
#### 生きがい（喜びや楽しみ）を感じる程度について（年齢・性別）

		(%)				
		十分感じている	多少感じている	あまり感じている	まったく感じている	不明・無回答
65歳以上	全体(n=2,049)	22.9	49.4	17.8	2.7	7.2
	男性(n=984)	23.0	50.1	19.2	2.1	5.6
	女性(n=1,065)	22.9	48.7	16.4	3.2	8.7
65～74歳	男性(n=565)	24.2	52.9	17.2	1.8	3.9
	女性(n=545)	25.7	51.0	14.9	1.8	6.6
75歳以上	男性(n=419)	21.2	46.3	22.0	2.6	7.9
	女性(n=520)	20.0	46.3	18.1	4.6	11.0

#### 生きがいを感じる程度について（収入の伴う仕事の有無別）



#### 生きがいを感じる程度について（社会活動への参加の有無別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

出典：「高齢社会白書」（内閣府）

#### 生きがいを感じる程度について

また、白書では<特集>として、内閣府が令和3年12月に調査した「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」の結果の一部を紹介しています。

調査結果の分析に当たっては、高齢者の生きがい（喜びや楽しみ）に着目して分析を行っていますが、左表のとおり、生きがい（喜びや楽しみ）を「十分感じている」「多少感じている」を合わせると、72.3%の高齢者が生きがいを感じていることとなります。

#### 就業等により感じる生きがい

生きがいを感じる程度を就業や社会活動への参加の有無別に見ると、左グラフのとおり、収入の伴う仕事をしたり、社会活動に参加したりしている人は、生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合が高くなっています。

また、他の質問では、「社会活動への参加により、生活に充実感を感じたり、新しい友人を得たりするきっかけともなっている。」「健康状態が良い人ほど生きがいを十分感じていると回答した人の割合が高くなっている」との結果となっており、「まとめ」では、「高齢者が、様々な就業や社会活動への参加の機会が得られるよう、環境整備を図るとともに、その基礎となる健康づくりを、高齢期、更には生涯にわたって推進していくことが重要である」としています。

特集

令和3年度会員数は前年度より1万2千人減少、新入会員は7千人増加

皆様のご協力により、令和3年度シルバー人材センター事業統計がまとまりました。主要指標の令和3年度事業実績及び前年度実績との比較、会員の現状及び推移については下記のとおりです。

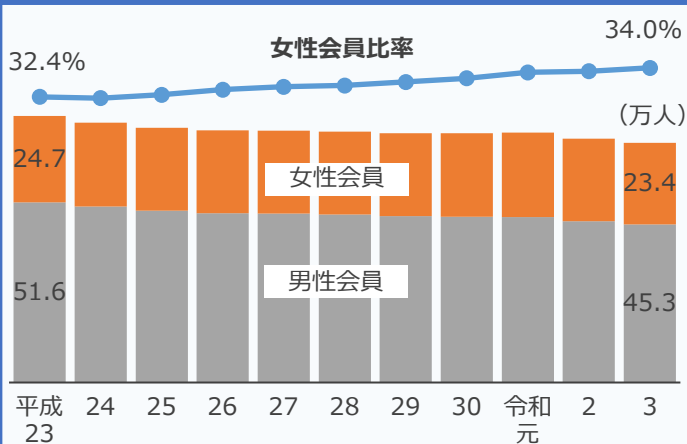
主要指標 (令和3年度事業実績)

※請負は請負・委任の合計

【会員数(人)】		前年度比較		【新入会員数(人)】		前年度比較		【退会会員数(人)】		前年度比較	
合計	686,651	(▲11,768)	合計	89,436	(+7,236)	合計	101,204	(+2,165)			
男性	453,074	(▲ 9,105)	男性	54,950	(+4,297)	男性	64,055	(+1,835)			
女性	233,577	(▲ 2,663)	女性	34,486	(+2,939)	女性	37,149	(+ 330)			
【受注件数(件)】		前年度比較		【就業延人員(人日)】		前年度比較		【契約金額(千円)】		前年度比較	
合計	3,085,044	(▲24,377)	合計	63,456,087	(+ 45,245)	合計	305,473,813	(+1,834,478)			
請負	3,031,408	(▲26,439)	請負	55,034,327	(▲239,887)	請負	260,545,998	(▲ 407,385)			
派遣	53,636	(+ 2,062)	派遣	8,421,760	(+ 285,132)	派遣	44,927,815	(+2,241,862)			

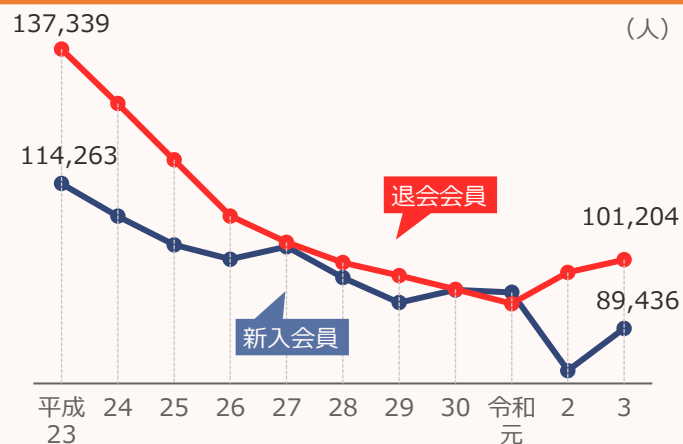
会員数・女性会員比率の推移

— 会員数は減少傾向、女性会員比率は9年連続増加 —



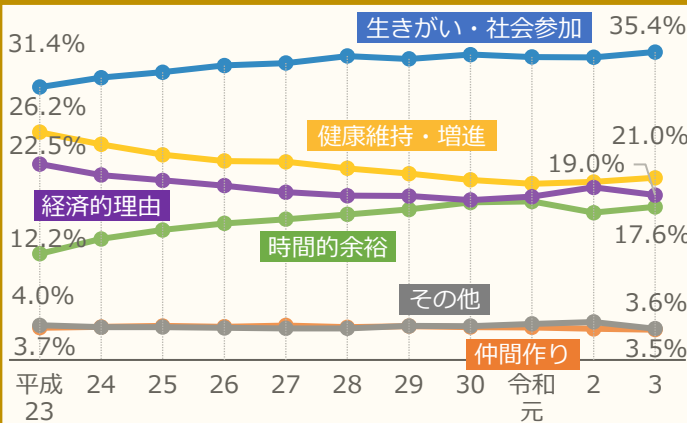
新入会員・退会会員の推移

— 新入会員は大きく増加、退会会員は2年連続増加 —



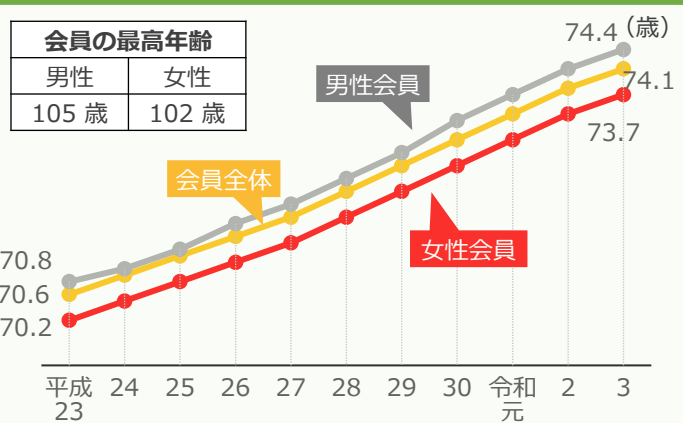
新入会員の入会動機の推移

— 「生きがい・社会参加」が11年連続トップ —



平均年齢の推移

— 10年で約3.5歳上昇 —



全シ協からのお知らせ

○「派遣元責任者必携 シルバー人材センター連合が行う労働者派遣事業 2022年版」発行  
労働者派遣事業関係業務取扱要領 (令和4年4月版) 及び最新の関係法令に準拠したシルバー派遣事業の実施に係る解説を掲載しています。内容を充実し、ページ数も前回より20%アップしました。ぜひお買い求めください。 定価 4,400円 (本体4,000円+税10%)、送料実費